

令和4年度 実績

社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団

兵庫県立こども発達支援センター

令和4年度 実績

1 診療実績

(1) 事前協議

受診希望者について市町窓口事前協議を実施し利用申込書を受け取る。(詳細は「利用の手引き」参照)

<月別事前協議件数>

	4年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年 1月	2月	3月	計
件数	15	17	30	31	26	23	28	29	31	16	26	23	295

※受診の有無に関わらず全件を掲載

<事前協議から初診までの日数>

日数	件数
～30日まで	99
31～60日	141
61～90日	40
91～150日	12
151～200日	1
200日以上	6
その他	62
計	361

(2) 医療機関からの紹介

令和2年度より医療機関からの患者の紹介を開始した。

	4年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年 1月	2月	3月	計
件数	6	6	5	4	7	4	5	5	4	3	2	5	56

(3) 利用患者数

	4年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年 1月	2月	3月	計
初診数	24	36	31	32	30	31	34	28	32	23	30	30	361
再診数	245	262	317	294	326	322	317	299	327	286	313	347	3,655
利用延数	269	298	348	326	356	353	351	327	359	309	343	377	4,016

(4) 初診患者内訳

初診患者に関する属性は下記の通りである。

<初診時年齢>

年齢	患者数
0歳	5
1歳	4
2歳	18
3歳	36
4歳	48
5歳	67
6歳	35
7歳	37
8歳	26
9歳	28
10歳	18
11歳	14
12歳	3
13歳	16
14歳	5
15歳以上	1
計	361

※0歳児5名、1歳児1名はダウン症児である。

<性別>

性別	患者数
男性	260
女性	101
計	361

<受診の目的>

受診の目的	患者数
診断を受けたい	239
療育を受けたい	11
診断と療育を受けたい	80
気になる症状がある	0
セカンドオピニオン	4
その他	27
計	361

<紹介市町>

神戸市	12
姫路市	3
明石市	186
洲本市	1
相生市	1
加古川市	17
赤穂市	20
宝塚市	1
三木市	17
高砂市	3
小野市	8
養父市	1
加東市	1
たつの市	1
稲美町	26
播磨町	43
市川町	1
福崎町	13
神河町	2
太子町	1
佐用町	1
県外	2
計	361

<診断>

発達障害に関連する主たる診断名
(ICD-10による分類)

疾患名	患者数	
PDD	53	14.7%
PDD+ADHD	16	4.4%
PDD+ADHD+LD	3	0.8%
PDD+ADHD+MR	2	0.6%
PDD+ADHD+その他	4	1.1%
PDD+LD	6	1.7%
PDD+LD+その他	2	0.6%
PDD+MR	27	7.5%
PDD+MR+その他	8	2.2%
PDD+その他	29	8.0%
ADHD	7	1.9%
ADHD+MR	2	0.6%
ADHD+その他	6	1.6%
LD	8	2.2%
LD+その他	4	1.1%
MR	46	12.7%
MR+その他	6	1.7%
その他	117	32.4%
評価中・未診断	15	4.2%
計	361	100.0%

※PDD：広汎性発達障害 (F84)

ADHD：注意欠陥多動性障害 (F90)

LD：学習能力の特異的発達障害 (F81)

MR：知的障害 (F70-74)

診断名が複数ある患者 134名 37.1%

知的障害の有無 (境界知能含む)

	患者数	
あり	126	34.9%
なし	235	65.1%
計	361	100.0%

「その他」の内訳 (重複あり)

甲状腺機能低下症	2
SGA 性低身長	1
不安障害	3
摂食障害	1
境界知能	35
全般性発達遅滞	22
社会コミュニケーション症	3
構音障害	2
言語発達遅滞	10
学習困難	2
協調運動障害	7
多動・不注意傾向	3
情緒障害	1
場面緘黙	1
チック障害	2
遺尿症	1
吃音	2
てんかん	1
睡眠障害	2
左難聴	1
肺高血圧症	1
起立性調節障害	1
超低出生体重児	3
極低出生体重児	2
低出生体重児	30
合指症	1
ダウン症候群	7
登校渋り	3
不登校	6
発達遅滞	9
自殺未遂	1
発達凸凹	21
定型発達	3
診断保留	33
評価中	15

(5) 保育実績

初めてセンターを訪れたこどもにまず保育士・支援員が出迎え、診察に同席し、こどもと個別で遊びながらこどもの特性を確認するために行動観察を行う。また、個別療育や集団コミュニケーション療法（別掲）では、各療法士と協働または保育単独で、こどもに合わせた遊びを工夫し発達を促す。

< 診療 >

	4年			5年			5年			計			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月
初診陪席	14	29	29	27	25	21	28	20	26	17	23	23	282
再診陪席	40	49	76	57	59	50	63	65	72	47	72	94	744
計	54	78	105	84	84	71	91	85	98	64	95	117	1,026

< 療育 >

	4年			5年			5年			計			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月
作業+保育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
言語+保育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保育のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2

< ダウン症児の赤ちゃん体操教室 >

ダウン症児への早期介入を目的に日本ダウン症療育研究会認定赤ちゃん体操指導員による親子体操を実施した。低緊張のダウン症児の運動発達を促すとともに発達の特徴を理解することでこどもへの理解や愛着を深めることが目的である。

	4年			5年			5年			計			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月
初診	1	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	6
参加者	5	6	4	6	1	5	5	6	4	3	5	5	55

(6) 心理実績

臨床心理士が心理検査を行い、こどもの発達の段階を客観的に確認し、支援の参考にする。面談では、具体的な対処法についてや、こどもの特性に対する理解を深めるために、本人や保護者と話し合う。また、必要に応じて、地域の園や学校と連携し、情報を共有してこどもへのバックアップを行う。

<心理検査数>

	4年									5年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
心理検査数	33	31	43	32	39	38	37	34	32	30	26	36	411

初診患者が発達検査を他機関で過去1年以内に実施済みである場合は、他機関で実施した検査を参考に当センター初診・再診時に陪席して行動観察を行い、評価を実施する。

<心理検査内訳>

		4年									5年			計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
発達	対面式	K式	13	16	20	18	13	17	12	14	13	17	11	12	176
		WISC	18	14	19	11	25	19	24	19	16	12	14	22	213
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	質問紙	津守	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
		その他	1	1	2	2	1	2	0	0	2	0	1	0	12
人格		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他		0	0	2	1	0	0	1	1	0	1	0	2	8	
計		33	31	43	32	39	38	37	34	32	30	26	36	411	

<うち再検査(再掲)>

	4年									5年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
K式	4	10	12	8	5	3	4	5	0	3	1	4	59
WISC	4	7	7	5	11	8	8	3	3	3	7	5	71
その他	1	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	6
再検査計	9	17	20	19	17	12	12	8	3	6	8	9	136
心理検査計	33	31	43	32	39	38	37	34	32	30	26	36	411

診療開始から1年が経過した平成25年度から、再検査を必要とする患者には半年～1年程度の期間を開けて再度、心理検査を実施した。

<心理検査以外>

	4年										5年			延人数	実人数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
診察陪席	28	36	32	24	33	37	27	27	30	35	34	46	389	223	
こども支援	カウンセリング	3	4	3	3	1	5	0	4	0	4	1	5	33	8
	他	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	5	4
保護者支援	面接	1	3	1	0	2	1	1	1	3	1	1	2	17	10
	電話	63	42	55	37	34	43	36	40	30	53	35	61	529	315
地域連携	電話	6	12	9	14	15	24	18	11	9	12	15	10	155	79
	会議	0	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	0	5	5

(7) 療育実績 (言語聴覚療法・作業療法)

言語聴覚士、作業療法士は、年齢や障害の程度、ニーズなどに対応した個別のリハビリテーションプログラムにもとづいて、療育を提供している。治療時間と頻度は、対象者の障害状況や年齢、家庭の状況などを配慮して設定している。こどもの持つ機能や能力を伸ばすための直接的なかかわりに加え、保護者に対しては、こどもの特性の理解を促し、日常生活での具体的な対応を助言している。

① 言語聴覚療法

療育評価では、国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査、質問-応答関係検査、絵画語彙発達検査(PVT-R)、新版 構音検査、学齢版 言語・コミュニケーション発達スケール(LCSA)等の検査を実施し、こどもの言語能力とコミュニケーション能力の評価を行っている。読み書きの苦手な児童には、標準 読み書きスクリーニング検査(STRAW-R)やURAWSS II (小中学生の読み書きの理解)等を実施することもある。検査が難しい乳幼児や検査の対象年齢を超えている児童には、遊びや会話を通して行動観察を行い、コミュニケーション能力を評価している。

個別療育では、個々の課題に合わせたプログラムにより療育を実施している。主に、絵カードを用いた言語理解と表出を促す課題や、他者との関係を保ちながらコミュニケーションを育むプレイセラピーを行っている。センターでの療育場面だけでなく、家庭や園でも取り組める課題やかかわりの助言も積極的に行っている。

	4年										5年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
療育評価件数	11	17	22	18	18	15	18	13	12	18	14	21	197	
療育件数	35	43	45	48	51	66	62	61	61	64	68	71	675	
合計	46	60	67	66	69	81	80	74	73	82	82	92	872	

② 集団コミュニケーション療法

就学を控えた5歳児を対象に、こどもの困りごとによりクラスを編成し、STと支援員が担当して活動を行っている。集団コミュニケーション療法はそれぞれ1単位20分、1回の活動につき3単位で実施している。

目 的：小集団の中で同年代のこどもと一緒に活動することで、園や学校など集団場面で抱える問題点について評価する。また、活動を通して、他者に伝えることや尋ねること、他者と協力することなどを経験し、社会性の向上を図る。

期 間 ・ 回 数：こども1人ひとり個別に設定 概ね6回程度

頻 度 ・ 実 施 時 間：月1回、1時間程度

構 成 人 数：3～5名

内 容：自己紹介、自由会話、着席活動、ルールのあるゲーム、共同制作

担 当 職 種：言語聴覚士、支援員

※令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、実施しなかった。

③ 作業療法

療育評価では、日本感覚インベントリー（JSI-R）、日本版感覚プロファイル（SP）、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）、フロスティック視知覚発達検査、感覚処理・行為機能検査（JPAN）、機能的自立度評価表（WeeFIM）などを用いて、こどもの運動、感覚、生活動作を評価する。

運動は、歩く・座るなどの姿勢と運動、手の使い方、スキップや縄跳びなどの協調運動、運動企画、ボディーイメージについて、感覚は、感覚の処理能力と知覚・認知能力について、生活スキルは、食事・着替えや排せつなどの生活動作を確認しながら、問題がある場合はその原因を明確にし、対応を検討する。

療育では、評価をもとに目標とプログラムを立案し、こどもへのセラピーだけでなく、生活環境や活動への介入を行う。

	4年									5年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
療育評価件数	14	15	15	15	16	15	14	13	8	16	13	14	168
療育件数	56	46	62	56	78	66	77	63	78	72	72	77	803
合計	70	61	77	71	94	81	91	76	86	88	85	91	971

2 事業実績

(1) 出張発達健康相談

センターへの来所が困難で、医師による発達障害の診断・療育をうける機会が少ない地域に、センターの職員が出向き、児童の発達にかかる健康相談を実施する（費用は無料）。

- ①対象者：乳幼児から概ね 15 歳までの児童で、発達障害の疑いがある者、又は発達障害と診断された者で、発達、情緒・行動面等の問題において課題を抱えている者
- ②対象地域：県内全域
- ③事業内容：相談及びカウンセリングの実施
- ④派遣職種：医師、心理士、保健師、支援員等
- ⑤実施方法：市町からの要望を集約し、市町と協議のうえ年間出張計画を策定し、実施

実施日	市町名	相談者数	派遣職種
4年7月15日	西脇市	1名	医師、保健師、支援員
7月29日	洲本市	1名	医師、心理士
9月21日	たつの市	4名	医師、心理士、保健師、支援員
11月25日	佐用町	2名	医師、心理士、支援員
5年2月10日	たつの市	5名	医師、心理士、保健師、支援員
4市町(5回)		13名	

(2) 派遣発達支援（療育体制づくりの支援）

市町の要請に基づき、市町の療育体制を新しく整備する場合や現在の体制をより充実させる場合に、その計画や内容に対する助言等を行うため、センター職員を各市町に派遣し、療育体制づくりを支援する。

- ①対象地域：県内全域
- ②事業内容：市町の療育体制づくりへの支援、核となる支援機関への支援、派遣支援後の定期的なフォローアップ
- ③派遣職種：心理士、作業療法士、言語聴覚士、支援員等
- ④実施方法：派遣を希望する市町から協議を受け、契約を締結のうえ派遣

実施日	市町名	派遣職種
4年5月19日	三木市	作業療法士、心理士
5月30日	三木市	作業療法士、心理士
6月16日	三木市	作業療法士、心理士
7月8日	三木市	作業療法士、心理士
7月26日	小野市	作業療法士
8月19日	宍粟市	作業療法士
9月15日	小野市	作業療法士
9月22日	三木市	作業療法士
10月21日	養父市	作業療法士
10月28日	三木市	作業療法士、心理士
11月30日	小野市	作業療法士
5年3月3日	南あわじ市	心理士

(3) 研修・情報提供等

こどもが成長発達する過程に携わる保健師や保育士、支援過程で関わる専門職の心理士、言語聴覚士等、支援者のスキルアップのため、センターの職員や外部専門家の特色を活かした研修を企画実施した。

- ①内 容：講義、実地研修
- ②対象者：保健師、保育士、支援員、心理士、言語聴覚士、作業療法士等
- ③講 師：こども発達支援センター職員
- ④経 費：受講者負担（こども発達支援センターの研修受講料等徴収要領による）

<基礎研修>

実施日	テーマ・内容	講師	参加者	場所
4年 5月 31日	[講義] 発達障害の基礎知識	医師、心理士、支援員	19名	センター
6月 7日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	支援員、言語聴覚士	3名	
6月 22日		心理士、作業療法士	3名	
7月 7日		心理士、作業療法士	2名	
7月 22日		支援員、言語聴覚士	3名	
8月 2日		心理士、言語療法士	2名	
9月 1日		心理士、作業聴覚士	3名	
10月 5日	[講義] 発達障害の基礎知識	医師、心理士、支援員	17名	
10月 18日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	支援員、言語療法士	3名	
10月 26日		心理士、言語聴覚士	3名	
11月 10日		心理士、作業療法士	3名	
11月 18日		心理士、言語聴覚士	1名	
5年 1月 12日		心理士、作業療法士	2名	

<スキルアップ研修>

実施日	テーマ・内容	参加者	場所
4年 7月 21日	「検査や評価から見えるこどもの姿 ～結果を支援に活かすために～」 講師：センター言語聴覚士、心理士	16名	センター
8月 18日	「読み書きに苦手さのあるこどもの支援」 講師：センター作業療法士、言語聴覚士	17名	
9月 7日	「こどもの遊びと関わりを考える」 講師：センター作業療法士、支援員	17名	

※令和4年度の研修は新型コロナウイルス感染症の影響で定員を限定して実施した。

<10周年記念講演>

10周年を記念して講演会を開催した。

実施日	テーマ・内容	参加者	場所
5年 2月11日	「障害の社会モデルと自閉スペクトラム症」 講師：東京大学先端科学技術研修センター准教授 熊谷 晋一郎氏 「身体から考える自閉スペクトラム症」 講師：東京大学先端科学技術研修センター特任講師 綾屋 紗月氏	106名	子午線ホール

<広報活動等>

情報提供としてインターネットホームページ (<http://hwc.or.jp/kodomohattatsu/>) の更新等により、発達障害について情報を発信するとともに、相談窓口の紹介を行う。

(4) 市町連携強化事業

開設10周年記念講演の際、市町の支援者の方々に当センターを活用いただく契機となるよう、10年間の実績と今後の展望を報告した。

(5) 家族交流支援事業

兵庫県自閉症協会やひょうご発達障害者支援センタークローバーとの共催のもと、ペアレントメンターによる講演会を実施した。相談会も実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和5年度に実施となった。

ペアレントメンター：発達障害のある子どもの子育てを経験し、かつ相談支援に関する講座を受けた保護者

実施日	テーマ・内容	参加者	主催・共催機関	場所
4年 12月13日	ペアレントメンター講演会 「就学に向けての準備と 入学後の学校生活について」 講師：ペアレントメンター	10名	主催：兵庫県自閉症協会 共催：ひょうご発達障害者支援センター	センター

(6) 教育連携

兵庫県教職員研修「令和4年度リーダー研修」講師

(7) 市町助言

市町	テーマ・内容
神戸市	療育ネットワーク会議にかかる指導・助言

<参考資料>

開設以降の市町・圏域別センター利用状況

※出張発達、派遣発達の◎は複数回利用市町

圏域	市町	初診患者 ※ () 内は R4 年度分	研修	出張発達	派遣発達
神戸	神戸市	127 (12)	○		
東播磨	明石市	1,394 (186)	○	○	
	加古川市	280 (17)	○		
	高砂市	143 (3)	○		
	稲美町	173 (26)	○		
	播磨町	224 (43)	○		
北播磨	西脇市	12 (0)	○	◎	
	三木市	192 (17)	○	◎	◎
	小野市	98 (8)	○	◎	◎
	加西市	3 (0)	○	◎	○
	加東市	4 (1)	○	◎	
	多可町	3 (0)	○		
中播磨	姫路市	10 (3)	○		
	神河町	8 (2)	○	◎	
	市川町	11 (1)	○		
	福崎町	55 (13)	○		○
西播磨	相生市	4 (1)	○	○	
	たつの市	16 (1)	○	◎	◎
	赤穂市	28 (20)	○		
	宍粟市	1 (0)	○		◎
	太子町	1 (1)	○		
	上郡町	3 (0)	○		
	佐用町	0 (1)	○	◎	
淡路	洲本市	17 (1)	○	◎	
	南あわじ市	8 (0)	○	◎	○
	淡路市	13 (0)	○	○	
阪神北	伊丹市	1 (0)	○		
	宝塚市	3 (1)	○		
	川西市	4 (0)	○		○
	三田市	2 (0)	○	◎	
	猪名川町	3 (0)	○		
阪神南	尼崎市	9 (0)	○		◎
	西宮市	11 (0)	○		
	芦屋市	2 (0)	○		○
丹波	丹波篠山市	3 (0)	○	○	
	丹波市	10 (0)	○	○	○
但馬	豊岡市	3 (0)	○	◎	
	養父市	1 (1)	○		◎
	朝来市	3 (0)	○	◎	
	香美町	0 (0)	○		
	新温泉町	0 (0)			○
県外		1 (2)	○		
計		2,884 (361)	40 市町	18 市町	12 市町